

令和 2 年度 事業報告

事業 1 : 酒蔵ツーリズム調査事業

- ① 「酒蔵ツーリズム」に関する現状と課題を把握するため調査を実施

期間：2020 年 11 月 16 日（月）～12 月 25 日（金）

協力：日本酒造組合中央会

対象：日本酒蔵ツーリズム推進協議会会員、日本酒造組合中央会所属酒蔵、公益社団法人日本観光振興協会会員（地方自治体・観光協会等） 計 2,105

- ② 「令和 2 年度 第 1 回酒蔵ツーリズム研修」にて調査結果を報告

事業 2 : 研修事業

- ① 観光関係者・協議会会員・一般向け酒蔵ツーリズム研修（3 月東京）

「令和 2 年度 第 1 回酒蔵ツーリズム研修」

開催日時：令和 3 年 3 月 4 日（木）14：00～16：00

事業 3 : プロモーション事業

- ① 酒蔵関連情報の集約、サイト運営と更新

・オフィシャルサイト及び Facebook・Twitter での情報発信

- ② 「ツーリズム EXPO ジャパン旅の祭典 in 沖縄」泡盛ブース出展

日時：2020 年 10 月 29 日（木）～11 月 1 日（日）前半 2 日間業界日、後半 2 日間一般日

出展：沖縄県酒造組合

・会場にて海外のメディア・エージェントとのビジネスマッチング

・酒と食のペアリングへの取り組みとして、泡盛と相性の良い沖縄県産食肉を使った料理を提案・提供（協力：沖縄県畜産振興公社）

・沖縄県で初めて認定された日本遺産のコンテンツである「泡盛」の歴史・文化や地域特性を発信

・沖縄県酒造組合と連携し、泡盛を使った消毒液（高濃度エタノール製品）を来場者並びに出展事業者に配布

事業 4 : 協議会自主事業

- ① 会員相互の交流、情報交流機会の提供

② 食との連携強化事業（郷土料理や世界各国料理とのペアリング、フードツーリズムやガストロノミーツーリズムとの連携）

③ 地域 DMO との連携による着地商品化、海外へのプロモーション支援

④ 酒蔵ツーリズムに関する提言活動

令和2年度酒蔵ツーリズム調査結果（概要）

調査目的

「酒蔵ツーリズム」の現状と現在抱えている課題を明らかにする

実施主体

日本酒蔵ツーリズム推進協議会（事務局：公益社団法人日本観光振興協会）
・協力：日本酒造組合中央会
・調査委託：株式会社インテージリサーチ

調査期間

令和2年11月16日（月）～令和2年12月25日（金）18：00

調査手法

インターネット調査（酒蔵・酒造関係のみ一部FAX回答）

調査対象

日本酒蔵ツーリズム推進協議会 45団体
日本酒造組合中央会 1,691者・団体
公益社団法人日本観光振興協会 369自治体・団体

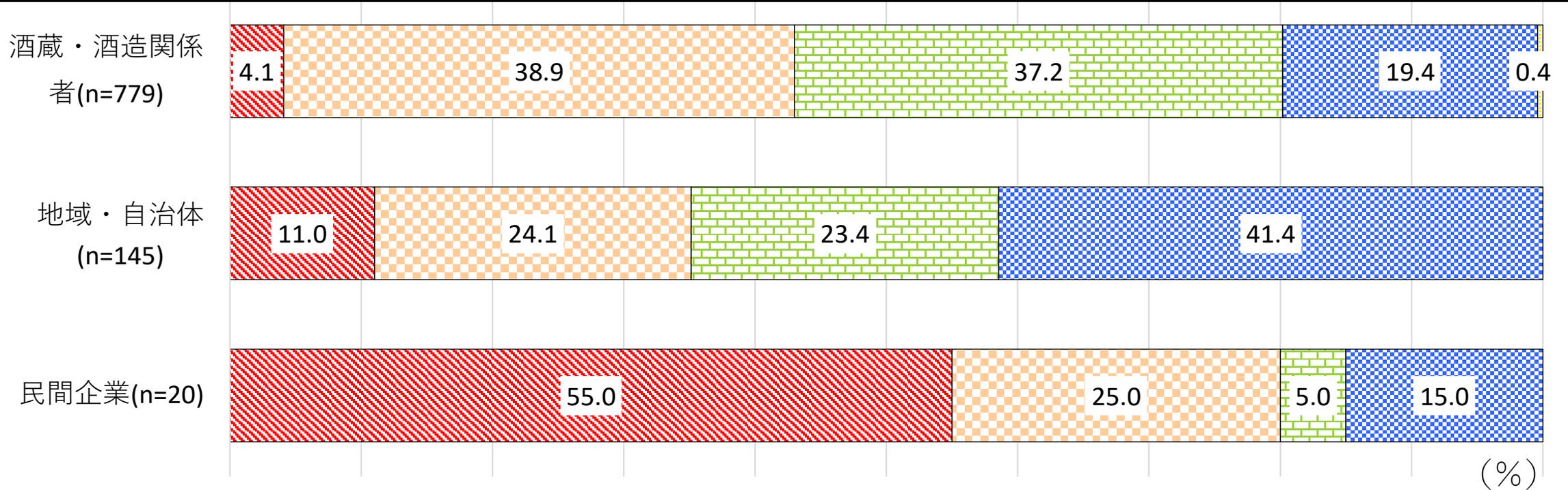
※日本酒蔵ツーリズム推進協議会と重複している団体は、日本酒造組合中央会・日本観光振興協会会員扱いとする。

回収率

酒蔵・酒造関係者 45.8%（1,698団体/779回答）
地方自治体・観光協会等 38.8%（373自治体/145回答）
民間企業 58.8%（33企業 / 20回答）

①「日本酒蔵ツーリズム推進協議会」認知度

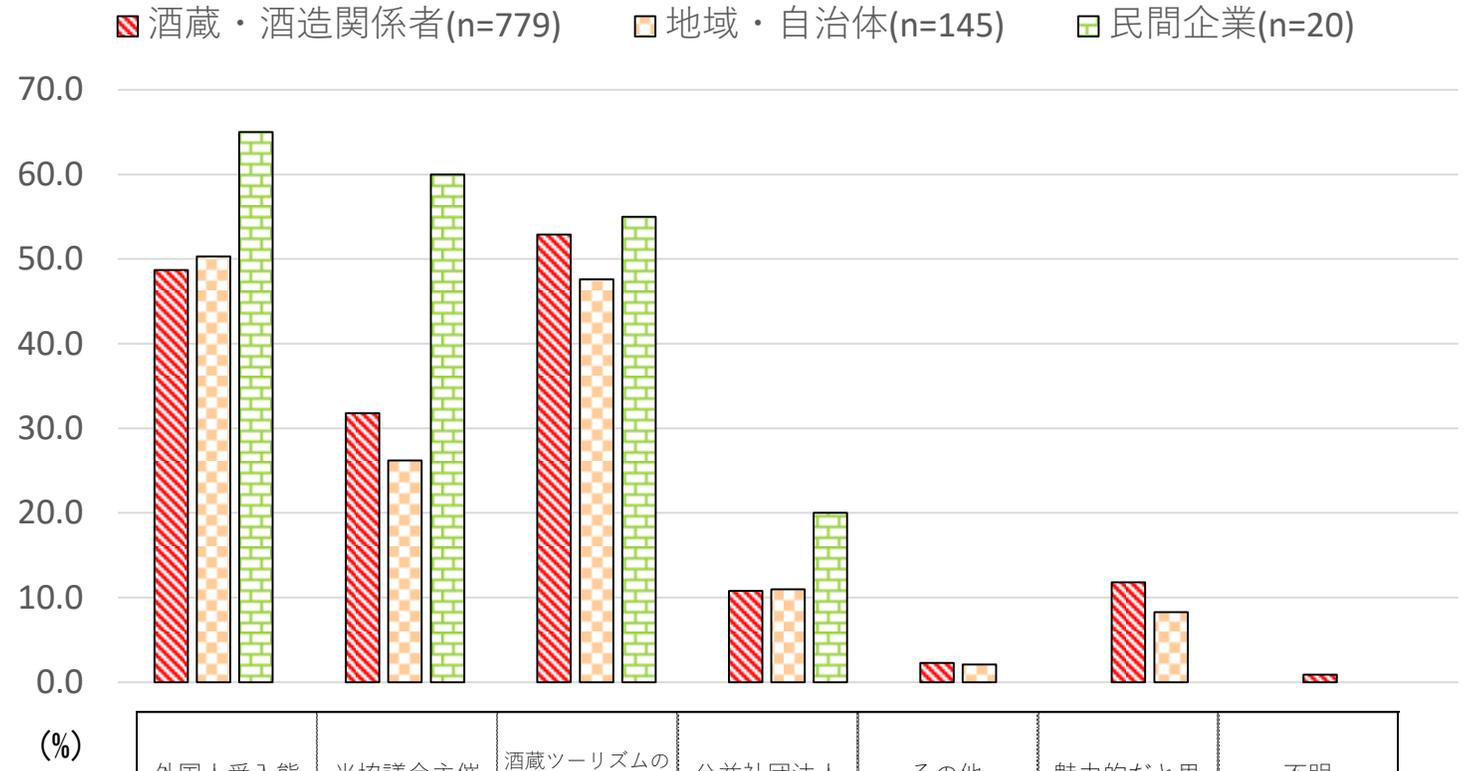
- ✓ 酒蔵・酒造関係は、「聞いたことはあるが入会していない」「何をしている団体か知らない」が76.1%と最も多い。
- ✓ 地域・自治体関係は、「聞いたことがない」が41.4%と最も多く認知度が低いことがわかる。



- 聞いたことがあり、既に入会している
- 聞いたことがあり、何をしている団体か知っているが入会していない
- 聞いたことはあるが、何をしている団体か知らない
- 聞いたことはない
- 不明

②魅力的な事業について (複数回答)

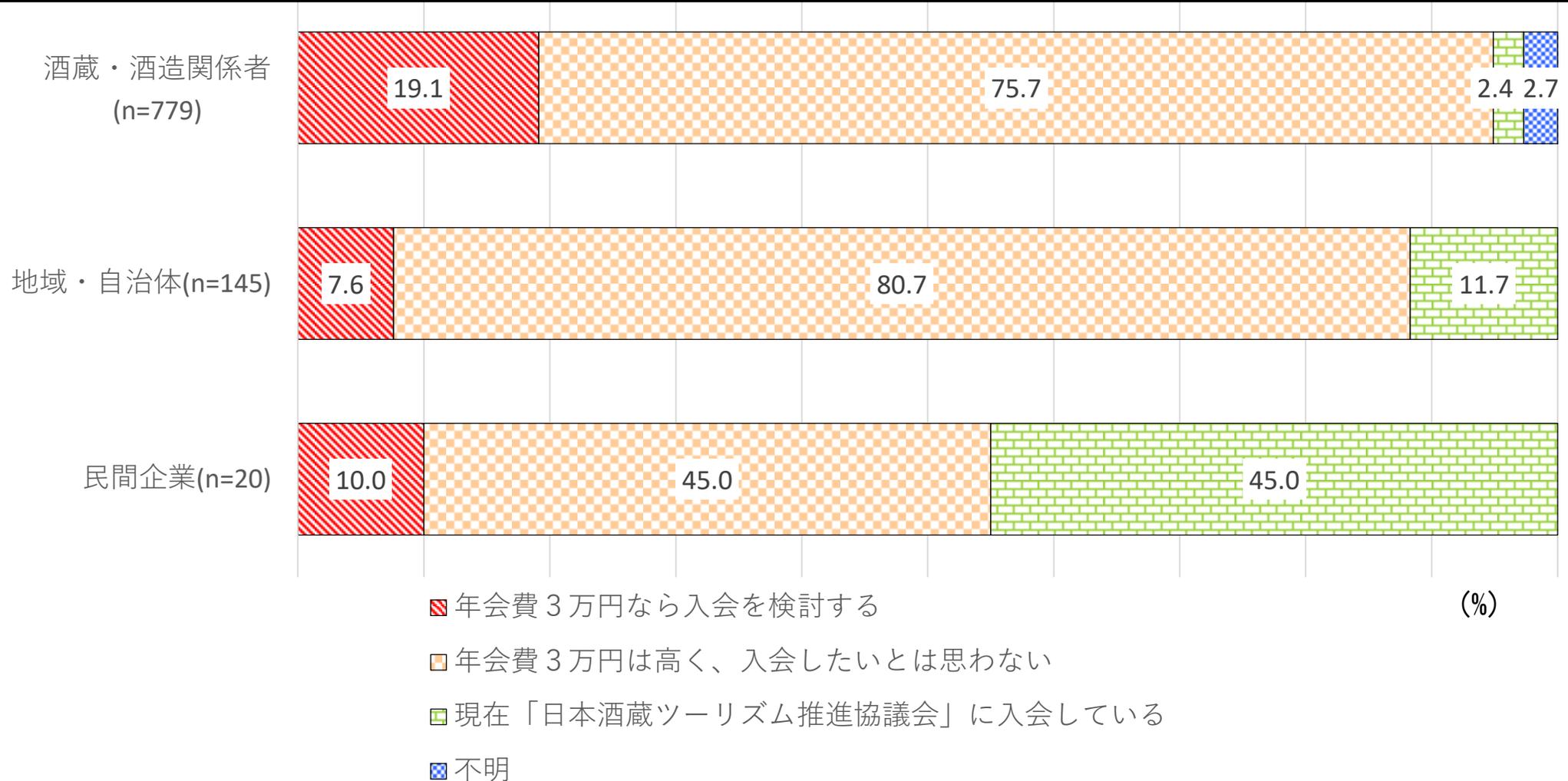
- ✓ 酒蔵・酒造関係は、「酒蔵ツーリズムの 프로모ーションサポート」が魅力的であると回答 (52.9%)。
- ✓ 地域・自治体・民間企業ともに「外国人受入態勢標準化ツールの提供」が魅力的である (地域：48.7%/民間企業：65%) との回答が最も多い。
- ✓ 一方で「魅力的だと思ふ事業はない」と回答した酒蔵・酒造関係は11.8%、地域・自治体は8.3%であった。



	n=	外国人受入態勢標準化ツールの提供 (酒蔵ガイド)	当協議会主催の酒蔵ツーリズム関係セミナー等への無料参加	酒蔵ツーリズムの 프로모ーションサポート (サイト・SNS情報掲載、旅行会社・メディアへの優先紹介など)	公益社団法人日本観光振興協会の会員サービスの一部提供	その他	魅力的だと思ふ事業はない	不明
酒蔵・酒造関係者	779	48.7	31.8	52.9	10.8	2.3	11.8	0.9
地域・自治体	145	50.3	26.2	47.6	11.0	2.1	8.3	0.0
民間企業	20	65.0	60.0	55.0	20.0	0.0	0.0	0.0

③「日本酒蔵ツーリズム推進協議会」入会意向

- ✓ どの区分でも「年会費3万円は高く、入会したいとは思わない」が最も多い。
- ✓ 特に地域・自治体は80.7%と最も高いことがわかる。



④「日本酒蔵ツーリズム推進協議会」に求めること（抜粋）

酒蔵・酒造関係者

- 酒蔵見学者に対しての見学マナー教育
- 地域が一丸となり、町ぐるみでの活性化事業に参画してほしい
- 酒蔵のみでなく地域を巻き込んだ観光事業創造のサポート
- 地域団体での成功事例と詳細プログラム等の開示、地域が一丸となって取り組んでいる事例の紹介
- 日本酒がメインのように感じるため、焼酎蔵など多方の連携をとっていただきたい
- 他の食品以外の製造業とのツーリズムを推進して欲しい
- 観光効果だけではない双方にとって生涯役立つテーマがあればよい
- 「日本酒蔵ツーリズム推進協議会」そのもののブランド強化
- 「日本酒蔵ツーリズム推進協議会」「酒蔵ツーリズム」の認知度が低い
- 酒蔵ツーリズムを地元で立ち上げるサポートが欲しい
- 小蔵でもできるのなら、まず売上に繋がる成功例を造り、紹介して頂きたい
- 積極的に事業を進めたい酒蔵に対する補助金やコンサル事業を案内して欲しい
- 各酒蔵の情報は酒蔵に任せて、酒蔵ツーリズムの楽しさ・重要性を1人でも多くの方々に知らせて欲しい

④「日本酒蔵ツーリズム推進協議会」に求めること（抜粋）

地方自治体・観光協会等

- 定期的な情報発信や、モデルケースとしての酒蔵ツーリズムの事業提案
- 研修やツーリズム造成に対する補助事業
- 酒蔵のない地域でもできる事業モデルがあると面白い
- 地元の酒蔵 2 ～ 3 蔵を回ると共に、地元の文化財、風景等を絡めたツアー事業（日本各地でモデル事業を実施）
- 地方でタクシーを使った酒蔵めぐりツアーをやっている個人経営の旅行会社への協力をしていただく方向を考えて頂きたい
- 日本内での取り組みや情報の共有のための、事務局レベルの会議等があれば、事務局のモチベーション、連携アップにつながる
- JETROとの連携による酒の国際商談会サポート

民間企業

- 酒蔵や観光協会、旅行会社などの酒蔵ツーリズムに関わる団体のマッチングの場を作ってほしい
- コンテンツの磨き上げに関する研修会、日本酒市場の動向に関する研修会、日本酒と食事のペアリング知識を深める研修会などを頻繁に開催してほしい
- 酒造と地域資源を組み合わせたコンテンツの造成
- コロナ禍でも実施できる「ツーリズム」の見本なる事業展開を期待します

ツーリズム EXPO ジャパン
旅の祭典 in 沖縄
報告書

2020年12月

日本酒蔵ツーリズム推進協議会

1. ツーリズム EXPO ジャパン 2020 開催概要

(1) 開催概要

① 開催名

ツーリズム EXPO ジャパン 旅の祭典 in 沖縄

② 主催

公益社団法人日本観光振興協会、一般社団法人日本旅行業協会、
日本政府観光局 (JNTO)

③ 開催日時

- ・ 2020年10月29日(木) 15時00分～18時00分
- ・ 2020年10月30日(金) 10時00分～18時00分
- ・ 2020年10月31日(土) 10時00分～18時00分
- ・ 2020年11月1日(日) 10時00分～17時00分

④ 会場

沖縄コンベンションセンター ならびに周辺施設

⑤ サイト

<https://www.t-expo.jp/>

(2) 来場者情報

① 来場者数

- ・ 2020年10月29日(木) 晴れ 2,197人
 - ・ 2020年10月30日(金) 晴れ 2,438人
 - ・ 2020年10月31日(土) 晴れ 9,094人
 - ・ 2020年11月1日(日) 晴れ 10,445人
- 合計 24,174人

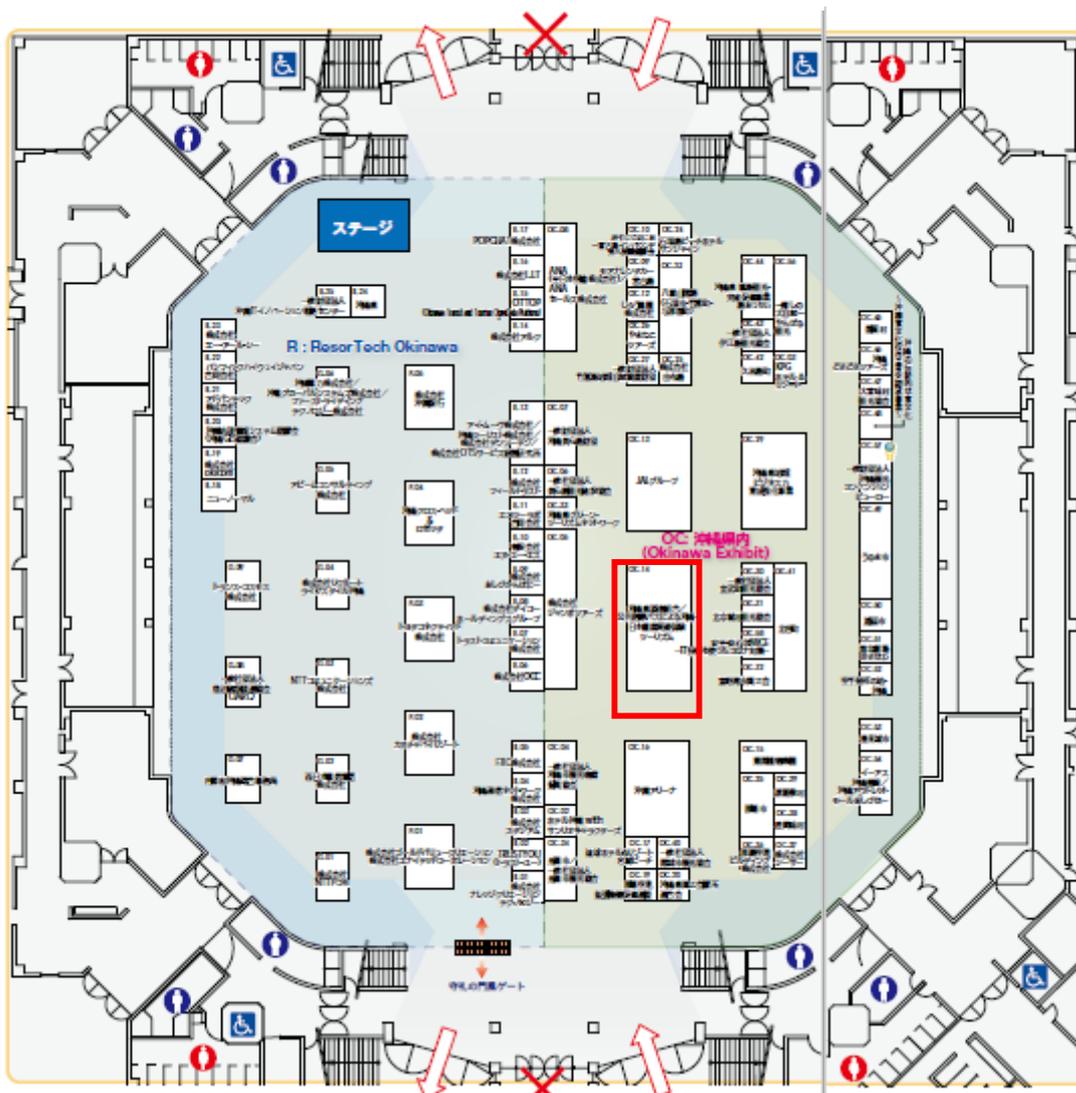
(参考: 2019年 合計151,099人、会場 インテックス大阪)

2. 実施内容

(1) 「酒蔵（泡盛）ブース」エリア

① ブース出展者
沖縄県酒造組合

② 出展場所
沖縄コンベンションセンター内



③ 掲出物

ブース外側は、泡盛を製造している沖縄県内の47酒蔵情報をエリア別に紹介するポスターを掲示した。地域別に特徴を記載することで、それぞれの特色・違いについて案内することができた。内側には泡盛と沖縄県の歴史・文化などとの関わりについて掲示し、泡盛は沖縄の歴史に深く関わっていることを周知することができた。また泡盛マイスターの前森氏監修のもと、泡盛と自宅で作ることができる料理のペアリング情報を掲示することで、より身近に感じてもらえるようPRすることができた。



(2) 「公共路線バスによる沖縄・日本遺産周遊体験ツーリズム事業」エリア

① ブース出展者

株式会社 JTB 沖縄

② 出展場所

「酒蔵（泡盛）ブース」内

③ 掲出物

日本観光振興協会事業「公共路線バスによる沖縄・日本遺産周遊体験ツーリズム構築事業（日本財団からの支援にて実施）」での取り組みを紹介するパネルを掲出した。昨年度登録された沖縄県の日本遺産『琉球王国時代から連綿と続く沖縄の伝統的な「琉球料理」と「泡盛」、そして「芸能』』の紹介し認知度向上を目指した。また、公共交通機関を活用して日本遺産を巡るモデルコースの案内・アプリの紹介を行い、今後の事業展開に向けて周知を図った。



(3) 「沖縄県産肉×琉球泡盛フェスタ」エリア

① ブース出展者

沖縄県畜産振興公社

出店飲食店：我那覇豚肉店、焼き肉もとぶ牧場、おきなわポークビレッジ

沖縄県畜産振興公社物販ブース、沖縄県酒造組合

② 出展場所

沖縄コンベンションセンター展示場東口前



③ 概要

沖縄県内でも人気店が出店。牛肉・豚肉の美味しい料理を提供した。泡盛販売コーナーではボトル・ドリンク販売をし、沖縄県産肉と泡盛の組み合わせを堪能・提供することができた。



(4) 泡盛で製造した「アルコール消毒液」

① 概要

沖縄県内で泡盛を製造している酒蔵のうち、高濃度エタノール液（アルコール消毒代替品）を製造している酒蔵にご協力頂き、泡盛で製造したアルコール消毒液を来場者に配布した（数量限定）。また出展者には大きなサイズを事前に配布し、各ブース内に設置し来場者・出展者の手指消毒のため、活用頂いた。

A) 来場者向け

- ・ 泡盛のアルコール消毒液 100ml 1本
- ・ 詰め替え用容器
- ・ 案内チラシ等

B) 出展者向け

- ・ 泡盛のアルコール消毒液 720ml 2本
※製造瓶によって配布本数が異なる
- ・ 詰め替え用容器
- ・ 案内チラシ

② 配布日時

10月29日（木）、30日（金）、31日（土）、11月1日（日）

③ 配布数（来場者向け）

10月29日（木） 500部

10月30日（金） 500部

10月31日（土） 1,000部（午前500部/午後500部）

11月01日（日） 1,000部（午前500部/午後500部）

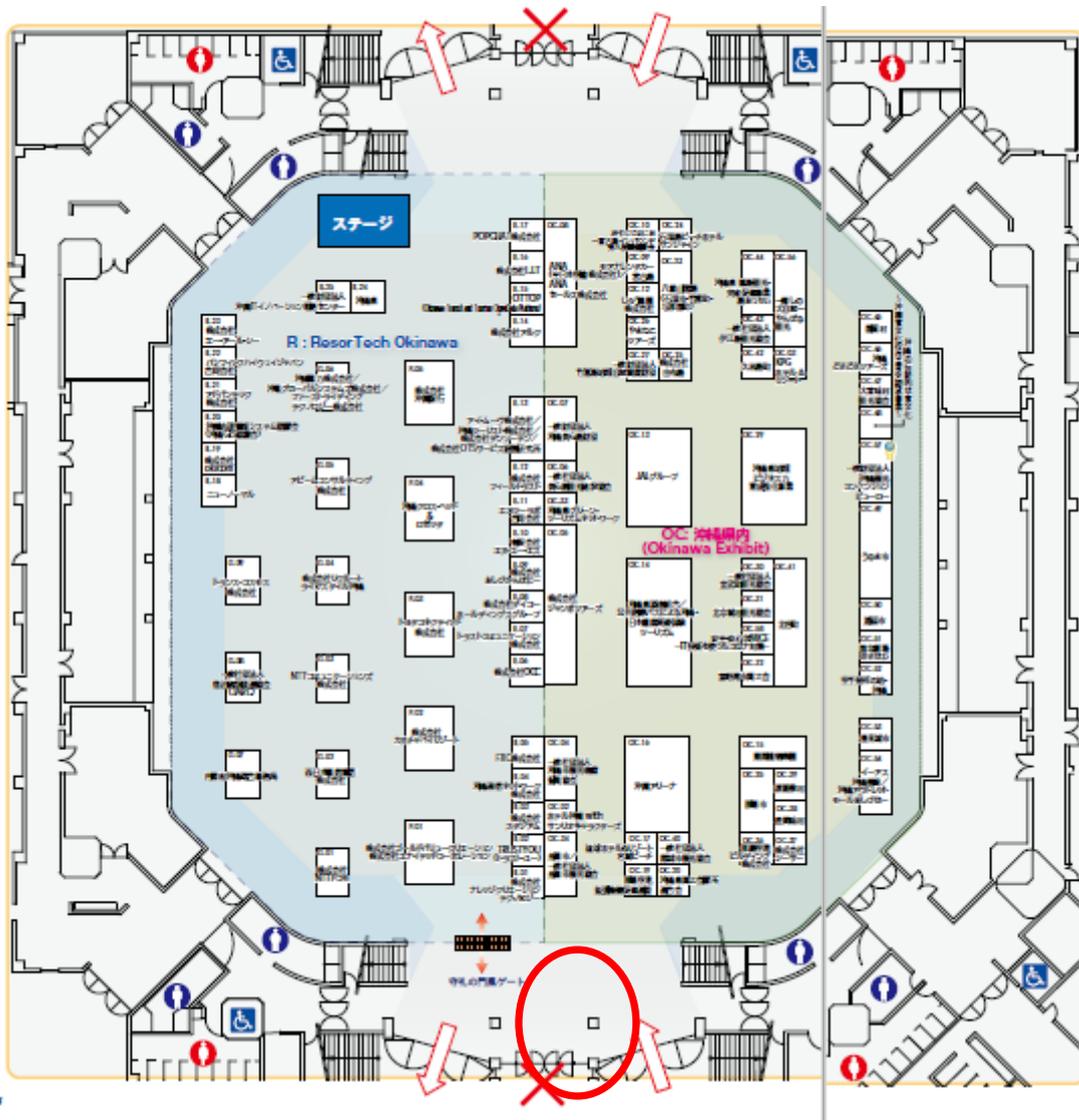
④ 協力酒蔵

配布製品の選定は沖縄県酒造組合のご協力のもと、航空機内に持ち込み可能なアルコール濃度70%未満のものに限定し、以下7酒造所に依頼した。

- ・ 株式会社久米島の久米仙
- ・ 株式会社龍泉酒造
- ・ 忠孝酒造株式会社
- ・ まさひろ酒造株式会社
- ・ 有限会社比嘉酒蔵
- ・ 有限会社八重泉酒造
- ・ 有限会社山川酒造

⑤ 配布場所

沖縄コンベンションセンター 西入口





**瓶からスプレー容器に
移し替えていただいた後、
手指の消毒などにお使い下さい。**

本製品は沖縄の泡盛酒造メーカーが製造した
高濃度エタノール製品です。
医薬品や医薬部外品ではありませんが、
消毒用アルコールの代替品としてご活用いただけます。
今回の沖縄でのツーリズムEXPOジャパン開催に際し、
沖縄県酒造組合様・沖縄観光コンベンションビューロー様
のご協力を得て、配布しております。

公益社団法人 日本観光振興協会
JAPAN TRAVEL AND TOURISM ASSOCIATION



(5) 試飲イベント

業界日（10月29日・10月30日）、一般日（10月31日・11月1日）ともに、沖縄県酒造組合中央会職員、泡盛の女王、泡盛マイスターから説明を聞きながら試飲を実施。それぞれの特徴を聞きながら試飲することができ、来場者から大変好評であった。



3. 総評

今回の「ツーリズム EXPO ジャパン 旅の祭典 in 沖縄」は、初めての沖縄県開催となったため、地域色を生かした出展を心がけた。沖縄県の特産品「泡盛」は、沖縄県内で離島も含む47の酒蔵が製造しているが、全てが出そろったことはなく、泡盛ファンの方も、そうでない方も楽しめる貴重な機会となった。

新型コロナウイルス感染症の影響により、海外旅行はもちろん、国内観光旅行にも制限がかかり、地元を巡る「マイクロツーリズム」が提唱された。今回の出展により、沖縄県民にとって泡盛、地元沖縄の魅力を再発見する場を提供することができたのではないかと考える。また県外からの来場者には、これまでの泡盛の固定概念を打破し、新しい泡盛の魅力を伝えることができたと考える。そのひとつに、泡盛マイスターや泡盛の女王から、各酒蔵の特徴や泡盛に合う料理の紹介をすることで、より身近に感じてもらえるよう工夫した。

泡盛の歴史、酒器、琉球料理、空手との関わりを学びながら試飲することで、沖縄県における泡盛の重要性・歴史的価値を認知する場となった。日本酒蔵ツーリズム推進協議会が目指す「地域全体に継続的な経済波及効果を生み出し、地域活性化に貢献」するための、第一歩となったのではないかと考える。今後は泡盛をきっかけに沖縄県内を観光・周遊し、継続的に楽しめるよう魅力・情報の発信に取り組む。

令和3年2月10日

「スポーツ文化ツーリズムアワード2020」の受賞団体を発表します ～スポーツ及び文化芸術の融合による観光の活性化に向けて～

スポーツ庁、文化庁及び観光庁は、スポーツや文化芸術資源の融合により、新たに生まれる地域の魅力を国内外に発信し、訪日外国人旅行者の増加や国内観光の活性化を図るための政策連携の取組として「スポーツ文化ツーリズム」を推進しています。

スポーツ文化ツーリズムの優れた取組を評価し普及を図るべく、昨年引き続き「スポーツ文化ツーリズムアワード2020」の公募を実施し、48件の応募の中から、計13件の受賞団体を決定しました。（同時発表：観光庁）

※例年開催している本アワードの表彰式及び同時開催の「スポーツ文化ツーリズムシンポジウム」については、本年度は開催せず、次年度に改めて行う予定です。

【スポーツ文化ツーリズムアワード2020 受賞団体】※詳細は別添参照

〈スポーツ文化ツーリズム賞 2件〉

- おわせ海・山ツデーウォーク実行委員会・尾鷲市
熊野古道伊勢路と尾鷲市の歴史文化を守り活用する「おわせ海・山ツデーウォーク」
- 富士山ネイチャーツアーズ
富士下山 ～富士山の知られざる魅力に出会う自然旅行～

〈スポーツツーリズム賞 2件〉

- 有限会社エクストレモ
あるがままの自然を活用したアウトドアスポーツ“アドベンチャーレース”を全国で展開
- FIBA 3x3 World Tour Utsunomiya Masters 実行委員会
FIBA 3x3 World Tour Utsunomiya Final 2019の開催

〈文化ツーリズム賞 2件〉

- 一般社団法人北前船交流拡大機構
日本遺産北前船を通じた各地の文化資源活用と観光振興
- 松山市
重要文化財の保存修理工事を観光資源化「道後温泉本館×火の鳥 道後REBORNプロジェクト」

〈武道ツーリズム賞 2件〉

○Ageshio Japan株式会社

世界でただ一つ！空手発祥地“沖縄”の空手ツーリズム事業

○むらやま武道ツーリズム推進協議会

居合道発祥の地でサムライ体験 山形県村山市

〈日本遺産ツーリズム賞 2件〉

○和歌山県和歌山市

和歌山ジャズマラソン

○出羽三山シンフォニー実行委員会

出羽三山の精神文化と山形交響楽団のコラボレーションによるコンサート『出羽三山シンフォニー』

〈食文化ツーリズム賞 3件〉

○TOYOURA世界ホタテ釣り協会

TOYOURA世界ホタテ釣り選手権大会 ～The world scallop fishing Championships～

○日本酒蔵ツーリズム推進協議会

「晴れの酒、花の宴。」日本酒蔵ツーリズム推進事業

○一般社団法人 しもきたTABIあしすと

ジオ・ガストロノミー・ツーリズム

〈担当〉

スポーツ庁 参事官（地域振興担当）

地域振興係長 横田 宜憲 （内線 3931）

地域振興係 多々良 祐明 （内線 3931）

stiiki@mext.go.jp

文化庁 参事官（文化観光担当）

参事官補佐 中村 夢隆 （内線 5051）

総括係長 高橋 鮎太 （内線 4869）

bunkankou@mext.go.jp

電話：03-5253-4111（代表）

スポーツ文化ツーリズムアワード2020

【スポーツ文化ツーリズム賞】入賞



(申請団体)

おわせ海・山ツデーウォーク実行委員会・尾鷲市

熊野古道伊勢路と尾鷲市の歴史文化を守り活用する 「おわせ海・山ツデーウォーク」



取組概要

聖地をつなぐ祈りの道「熊野古道伊勢路」は、2004年に「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産登録をうけ、これを契機として、同年第1回大会を開催。次回で17回目。全国各地からウォーカーが集まり、海と山とにはぐかれた尾鷲市の、歴史の道を歩む。実行委員会による定期的なコース整備、保全活動により熊野古道のレガシーを後世に伝える役割も担う。スポーツイベントにとどまらない、歴史・文化・観光が融合したウォーキング大会。



評価ポイント

- 地域の自然を活かしている。
- ウォーキング協会との連携や、スポーツ振興への寄与、文化の活用、経済効果、将来性など、実績・総合力で最高評価。
- 地域との繋がり、結びつき等含めて非常にバランスの良いイベント。

スポーツ文化ツーリズムアワード2020

【スポーツ文化ツーリズム賞】入賞



(申請団体)

富士山ネイチャーツアーズ

富士下山

～富士山の知られざる魅力に出会う自然旅行～



取組概要

「富士山の魅力は五合目より下にその七割がある」というツアーコンセプトを基に、富士山を下って楽しむオリジナルエコツアー。五合目まで車で登ることが出来る富士山ならではの地域性を持ち、代謝による体力消耗が少ないことから、体力の強弱、老若男女問わず、疲れることなく五合目より下に広がる豊かな自然や、旧登山道にひっそりと残された富士登山信仰の歴史文化の史跡をゆっくりと楽しみ、学ぶことが可能。

富士山に新たな観光様式を取り入れるとともに、自然、歴史文化の保全と健康増進に寄与する持続可能な新たなツーリズム。

評価ポイント

- ウォーキングだが地域らしさを活かしている。
- 山を下りながら自然遺産としての富士山を楽しむというところがユニーク。



スポーツ文化ツーリズムアワード2020 【スポーツツーリズム賞】入賞



(申請団体)

有限会社エクストレモ

あるがままの自然を活用したアウトドアスポーツ “アドベンチャーレース”を全国で展開



取組概要

アドベンチャーレースは、3~4名が1チームとなり、様々なアウトドアアクティビティ（トレイルランニング、トレッキング、マウンテンバイク、カヤック、オリエンテーリング）を駆使しながら、チームで協力してゴールを目指していくレース。アウトドアスポーツの愛好者を始め、親子や初心者向けのレースまで幅広く開催しており、多くの人にその地域の自然や人との触れ合いを体感してもらうこと、アウトドアスポーツの裾野を広げることが目標に、地域交流や地域活性に貢献していくことを目的として展開している。

評価ポイント

- 参加者の幅が広く、地域との連携、自然の活用など総合点が高い。
- インバウンドが復興した際には、大きく注目されるジャンル。地域との連携や、単発で終わらない運営を評価。
- 独創性や、地域との繋がりがあり、今まで活用されていなかった中山間地域を含めた中小地域を活用できる将来性を評価。



スポーツ文化ツーリズムアワード2020 【スポーツツーリズム賞】入賞

(申請団体)

FIBA 3x3 World Tour Utsunomiya Masters 実行委員会



FIBA 3x3 World Tour Utsunomiya Final 2019の開催



取組概要

FIBA（国際バスケットボール連盟）主催の3人制バスケットボール「3x3」のクラブチーム世界一決定戦「FIBA 3x3 World Tour Utsunomiya Final 2019」を開催。
宇都宮市のシンボルで、9mを超える宇都宮二荒山神社の大鳥居前・バンバ市民広場に特設コートを設置し、大会を開催。
宇都宮を代表するイベントである「宇都宮餃子祭り」、「宮の市」、「MIYA JAZZ IN」を同時開催し、宇都宮の魅力を発信。
オープニングセレモニーや試合の合間には、宇都宮伝統の宮壺會神輿や居合道のパフォーマンスを実施。



評価ポイント

- 独自性、オリジナリティ、地域らしさの観点を評価。
- 従来のコートにとらわれない海外からも注目される舞台設定や、地元のお祭りとの連携など、集客装置としての可能性を評価。
- 国際性があり地域と結びついた取組である。将来性を評価。

スポーツ文化ツーリズムアワード2020 【文化ツーリズム賞】入賞

(申請団体)

一般社団法人北前船交流拡大機構

日本遺産北前船を通じた各地の文化資源活用と観光振興 ～ 荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～



取組概要

全国各地で、寄港地の連携、文化資源の磨上げ、国内外の旅行者の増加と地域への経済効果波及、地域の活性化を目指す観光フォーラムとして、「北前船寄港地フォーラム」を平成19年より実施。本年度で29回目の開催。地元への経済効果に加え、観光資源の掘り起こしと再認識に寄与。

日本遺産構成48市町や日本財団等と協力して、ブランディング、情報発信、経済効果、地域活性化に係る取組を展開。

大手旅行会社協力のもと、日本遺産北前船を巡るツアーを設定・販売している。

評価ポイント

- 沢山の地域と連携し、一つ一つを大きなイベントに仕立てている点を評価。
- 長年の取組であり、北前船自体の歴史の連続性や北前船によってもたらされた食文化や生活文化がもっと認識されるべき。



スポーツ文化ツーリズムアワード2020 【文化ツーリズム賞】入賞



(申請団体)
松山市

重要文化財の保存修理工事を観光資源化 「道後温泉本館×火の鳥 道後REBORNプロジェクト」



取組概要

明治27年改築の道後温泉本館は、125年を超えた今も世界中の人々を魅了する松山市の宝。重要文化財の公衆浴場を営業しながらの保存修理工事は、日本初の取組。未曾有の大災害に備えた工事を乗り越えるため、手塚治虫の「火の鳥」とコラボレーション。文化財工事を「再生への過程」と捉えて物語化し、日本が世界に誇るアニメ文化で情報発信。工事・営業エリアを分けて、入浴でき、工事用仮設物を「ラッピングアート」として新たなまちのシンボルに仕立て、文化財工事を「再生の物語」として新たな観光資源に転換。

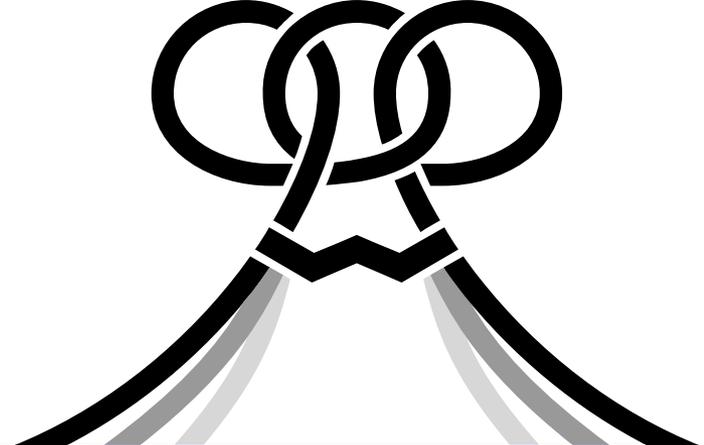
評価ポイント

- アイデアが斬新。ピンチをチャンスに変えるという言葉が今のこのタイミングにふさわしいのでは。
- バックヤードツアーのモデルになるのでは。新しいアニメとの組み合わせが面白い。
- 修復自体を企画に変えるというコンセプトが良い。限定感が出る。

スポーツ文化ツーリズムアワード2020 【武道ツーリズム賞】特別賞

(申請団体)

Ageshio Japan株式会社



世界でただ一つ！空手発祥地“沖縄”の空手ツーリズム事業



取組概要

世界に1.3億人の愛好家を有する世界最大の武道である「空手」発祥の地「沖縄」で、空手資源・観光資源を融合し、沖縄を訪れる空手家・旅行者を対象に、6ジャンル（空手観光、他武道体験、文化体験等）で合計25点の多様性ある空手ツーリズム商品を開発。空手発祥の地、沖縄に「空手ツーリズム」という、世界中でも唯一の、新たな観光市場を創出するとともに、沖縄県内の空手・観光業界発展への貢献も目指している。



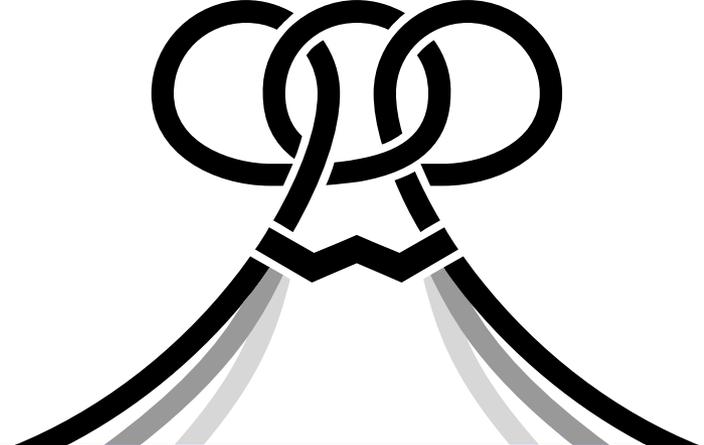
評価ポイント

- 沖縄の状況を踏まえて応援したい気持ちもある。
- 世界に広がりのある取り組みは評価できる。
- 武道ツーリズムの牽引者になりうる取組。

スポーツ文化ツーリズムアワード2020 【武道ツーリズム賞】特別賞

(申請団体)

むらやま武道ツーリズム推進協議会



居合道発祥の地でサムライ体験 山形県村山市



取組概要

山形県村山市には日本一社居合神社があり、居合の始祖が祀られている。居合道発祥の地という地域文化を活かした着地型体験プログラム「居合道発祥の地でサムライ体験」。

居合神社の境内に隣接する道場「居合振武館」にて、夢想神伝流居合の形「初発刀」を習い、抜刀術宗家の指導のもと真剣で畳筒を斬る試斬体験ができる。インバウンド訪日客はもちろん、日本人にとっても、忘れがたいエクスペリエンスとなっている。

居合道講師、運営ともに地元を中心に進めており、観光資源や農業体験、他市町との連携を目指している。

評価ポイント

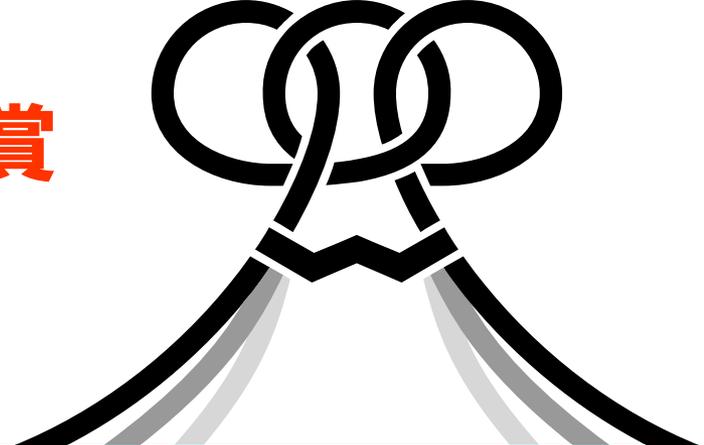
- 海外に経験者が少ない居合を体験でき、アピールになる。
- 一般の方に向けてツーリズムとしてしっかりできている。

スポーツ文化ツーリズムアワード2020

【日本遺産ツーリズム賞】特別賞

(申請団体)

和歌山県和歌山市



日本遺産「絶景の宝庫 和歌の浦」をめぐる！日本初のミュージックマラソン 「和歌山ジャズマラソン」



取組概要

2001年から実施し、2021年に第20回大会を迎える。マラソンの舞台は日本遺産「絶景の宝庫 和歌の浦」。歴史文化を肌で感じながら風光明媚な景色の中を駆け抜けるコース設定。コース沿道に、ジャズのライブステージを設け、生演奏の軽快なリズムがランナーを後押しし、メイン会場では、特産品を味わえるブースを設置。食文化も味わうことができる。地元婦人会、自治会、学生等の協力を得、地域一体で盛り上げている。

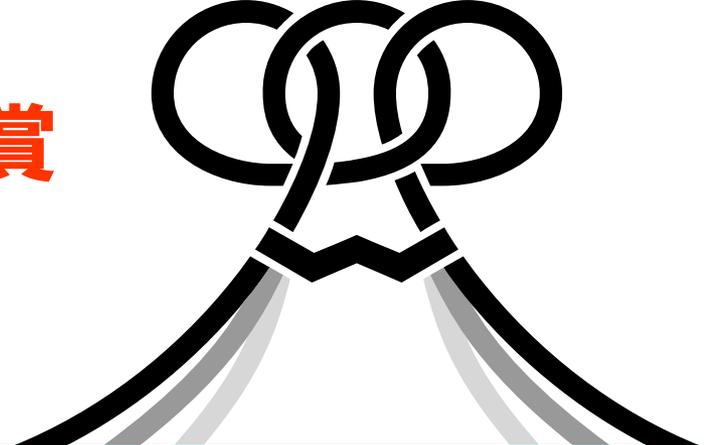


評価ポイント

- スポーツと文化の両方の要素がバランスよく入っており、地元とも調和している。総合点として高い。
- マラソンが多い中、異彩を放っており歴史もある。

スポーツ文化ツーリズムアワード2020

【日本遺産ツーリズム賞】特別賞



(申請団体)

出羽三山シンフォニー実行委員会

出羽三山の精神文化と山形交響楽団のコラボレーションによるコンサート

『出羽三山シンフォニー』



取組概要

出羽三山が日本遺産に認定されたことをきっかけに、平成28年より実施し、過去4回開催。

出羽三山（三神合祭殿広場）を会場に、山形交響楽団によるフルオーケストラコンサートを実施。

屋外でのフルオーケストラコンサートという希少性もあり、本コンサートが組み込まれた旅行商品が造成されるなど、国内外から来場。

コンサート映像（概要版）をWEB配信することにより、日本遺産である出羽三山の魅力を広く国内外に発信している。



評価ポイント

- 荘厳な中で行われているきわめてユニークな取り組み。
- 唯一無二な場所での個性的なカップリングによる取り組みである。

スポーツ文化ツーリズムアワード2020

【食文化ツーリズム賞】特別賞

(申請団体)

TOYOURA世界ホタテ釣り協会

『TOYOURA世界ホタテ釣り選手権大会』 ～The world scallop fishing Championships～



取組概要

北海道豊浦町は、噴火湾における「ホタテ養殖発祥の地」として50年以上の歴史がある。そのホタテを活用した世界大会として、公式ルールなどを決め、平成21年より毎年3月に個人戦（現在までに12回開催）の開催、秋には団体戦やジュニア大会（現在までに各7回開催）を実施。1試合の制限時間を3分間とし、専用の釣竿で水槽内の活ホタテが何枚釣れるかを競う。

大会開催だけに限らず全国各地へのイベント出張や、教育旅行・インバウンド・インセンティブツアー等の体験プログラムとして同競技を普及すべく、様々な活動を行っている。

評価ポイント

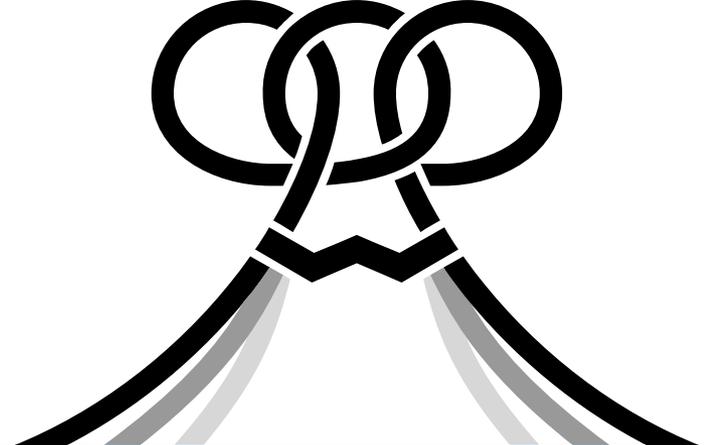
- 一目見て、自分もやりたいと思えるユニークな取り組み。
- この町にふさわしいイベントで個性的。運営努力もみえる。

スポーツ文化ツーリズムアワード2020

【食文化ツーリズム賞】特別賞

(申請団体)

日本酒蔵ツーリズム推進協議会



「晴れの酒、花の宴。」日本酒蔵ツーリズム推進事業



取組概要

日本酒をはじめ日本産酒類の消費量が減少しているなか、文化財を人が集う場として活用し、最新ビジュアル技術を駆使し、訪日客など内外に発信することにより、日本の酒の復興（ルネッサンス）を目指す。

旧醸造試験所第一工場（通称：赤煉瓦酒造工場）では、重要文化財である赤レンガ倉庫の見学、醸造文化である酒造りの理解、食とのマリアージュ、伝統芸能である酒をテーマにした落語など、日本産酒類とそれに関連する文化をテーマにしたイベントを開催。貴重な文化財の認知拡大や酒食をはじめとする日本文化の周知、さらに「日本酒蔵ツーリズム」の認知拡大に継続的に取り組む。



評価ポイント

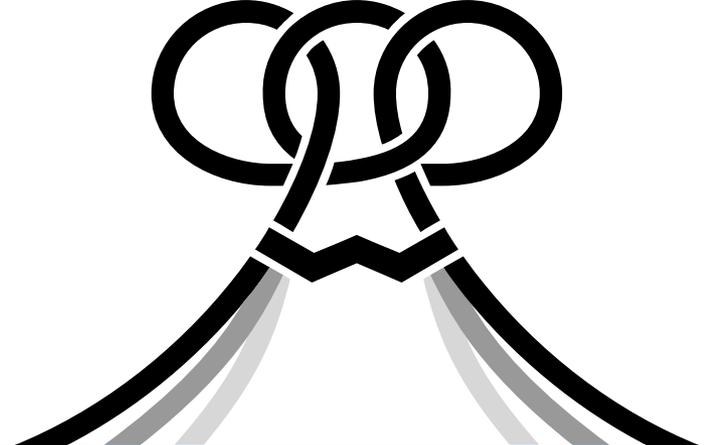
- 将来性があり、各地域ともうまく結びついていて良い。
- 昨今の海外における日本のお酒に対する評価も高いのでニーズがある。

スポーツ文化ツーリズムアワード2020

【食文化ツーリズム賞】特別賞

(申請団体)

一般社団法人しもきたTABIあしすと



ジオ・ガストロノミー・ツーリズム



取組概要

国定公園に指定され、日本ジオパークにも認定される下北半島の自然。

この自然・景観(ジオ)の独自性、また、ジオにより恵まれた食資源・食文化の独自性(豊かさ)を、シンボリックに伝えるため、特異なジオ環境下で、下北の食材をふんだんに使ったダイニングイベントを「下北ジオダイニング」と銘打って開催。

開催により、下北地域の独自性を明確化するとともに、広報により、その魅力を発信している。



評価ポイント

- 小規模な取組ながら、本質的なところをついており、見せ方もうまい。
- ツーリズムとしての建付けがしっかりあり、食の考えもしっかりしている。

「スポーツ文化ツーリズムアワード 2020」について

(1) 概要

スポーツ庁、文化庁、観光庁の三庁は、2016年3月に「スポーツ庁、文化庁及び観光庁の包括的連携協定」を締結し、2016年度から毎年、「スポーツ文化ツーリズムアワード」を実施しています。

スポーツ文化ツーリズムアワードとは、スポーツ文化ツーリズム（※）の推進に寄与する取組やイベントを公募し、3長官が選定・表彰を行うものです。第5回となる本年度では、応募のあった48件の取組やイベントの中から、計13件の受賞団体を決定しました。

※各地域のスポーツイベントと文化芸術資源を結び付けて、新たに生まれる地域ブランドや日本ブランドを確立・発信し、訪日外国人旅行者の増加や、国内観光の活性化を図り、日本及び地域経済の活性化を目指すこと。

【本賞】

- スポーツ文化ツーリズム賞
- スポーツツーリズム賞
- 文化ツーリズム賞

【特別賞】（新設）

- 武道ツーリズム賞
- 日本遺産ツーリズム賞
- 食文化ツーリズム賞

(2) スケジュール

令和2年9月4日	公募開始
9月4日～10月23日	公募期間
12月9日	受賞団体選定審査委員会
12月25日	受賞団体への内示
令和3年2月10日	報道発表

(3) 今後について

2021年度（令和3年度）に開催予定の「スポーツ文化ツーリズムシンポジウム」において、「スポーツ文化ツーリズムアワード 2020」表彰式を実施し、受賞団体に対して、三庁長官から表彰を行う予定です。

(4) これまでの受賞団体・取組について

ホームページをご参照ください。

https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/jsa_00028.html